

学校法人 鶴岡学園 北海道文教大学

北海道文教大学大学院 北海道文教大学附属幼稚園
北海道文教大学明清高等学校



新年交礼会年頭所感

(平成三十年一月九日)

理事長・学長 鈴木 武夫

あ

けましておめでとうございま
す。

昨年は学園創立七十五周
年という区切りの年で、振り
返りと整理をする中で、次の時代への構
想を固める事業に取り組みました。

そのひとつが「鶴岡学園の建学の精
神」を「清正進実」として、見直しと再構
築をいたしました。

次に「鶴岡学園・教育100年ビジョ
ン」を構築して、各部署の将来構想をま
とめました。

三つ目には、数年かけて取り組んでま
いりました大学院の「リハビリテーショ
ン科学研究科」と「こども発達学研究科」
の設置を成し遂げました。

四つ目には「鶴岡記念講堂」の竣工と、
「鶴岡先生史料室」を開設し、創立者の精
神を学ぶメモリアルホール・メモリアル
ルームを完成させました。

そして「鶴岡学園創立75周年記念式
典」には内外560名の賓客をお招きし
て盛大に執り行いました。

加えて秋には「鶴岡御夫妻記念銅像」
を恵庭キャンパスの正面入り口に移設
いたしました。

大きな事業を皆さんのご協力のもと
に、成し遂げた記念の年となりました。
心からお礼を申し上げるところであり
ます。

さて、ここに平成30年・2018年と
いう新しい年を迎え、年頭にあたりいく
つかの所感を述べます。

まずなんといっても、学園の基本姿勢
である「学生・生徒・園児と保護者の皆様
の満足度を高める教育」という姿勢を、
より高くより強く推し進める年にした

いものです。

次に、常により「質の高い教育」を目指
すこと。そして「面倒見のいい教育」との
両輪で進みます。「質の高い仕事」をする
教職員は、同時に「面倒見のいい仕事」を
する教職員であることを肝に銘じたい
と思います。

三つ目には、安定した財政を保証す
るために学科の新設を進めて、現在
2,200名の定員から純増で収容定
員3,000名規模の大学を目指す基
点となる年にしたいと思います。

四つ目には、鶴岡記念講堂をはじめと
して現状の施設の活用を進め、学科の
改組を含めた充実した教育体制作りを
進めます。

五つ目には、高校と幼稚園において、
学園全体の連携関係を前提として時代
の変化を先取りした地域貢献を目指し
て、設備と立地を含めて検討することに
なります。

六つ目には、同窓会・後援会・PTA・
父母会との連携を深め、お互いに成長し
あう方向を確認して、大きな輪を作る年
にしたいと思います。

そして、七点目として、学園全体が将
来構想を共有することによって、「笑顔
で未来を語り合う温かな職場」にするた
めに手を携えて進む飛躍と実行の年に
すること。

以上七つの重点を確認して進んでま
いります。

教職員の皆様におかれましてはそれ
ぞれの部署にあつて、将来展望を共有し
て、精励努力されることを心から期待し
て、年頭の所感表明といたします。

「実績の文教」



国際言語学科4年
大戸 くるみ
とわの森三愛高等学校出身
ANAエアポートサービス(株)内定
グランドスタッフ 羽田勤務

**第一志望の会社に内定！
遠回りしたからこそ、夢が明確になりました**

**多彩な学びがある大学
興味の幅が広がりました**

高校卒業後、就職に有利だと思いい、医療事務の専門学校に通っていましたが、自分には向いていないと感じ、スパッと退学。もともと外国語にも興味があり、医療事務とどちらに進むか迷っていたことから、英語と中国語の両方を学べ、希望すれば医療分野を履修するチャンスもあるこの大学へ入り直しました。4年間を通して、語学はもちろん、異文化への理解が深まったのは、多彩な学びがある大学ならではの、勉強だけでなく、よさこいサークルで活動したことも貴重な経験になりました。多くの人たちと交流することで、コミュニケーション能力が身についたことを実感しています。

**資格取得にもチャレンジ！
人間的にも成長できた4年間**

グランドスタッフという仕事を知らずとも大学に入ってからです。語学を生かせ、接客も好きだったため、ANAエアポートサービスへの就職を目指し、羽田まで企業説明会に通いました。サービス接遇検定、秘書検定など、仕事に生かせる資格にもチャレンジ。アドバイザーの先生や就職課のサポートもあって、無事内定をいただくことができました。みんなより1歳年上ということギャップを感じていましたが、壁を作っているのは自分の方だとわかり、人間的に成長できたことも大きな収穫です。興味のあることを追求すればやりやすいことが明確になることを、身をもって立証できた4年間でした。



看護学科4年
直江 純平
北海道石狩南高等学校出身
東京大学医学部付属病院
(看護師)内定

**「患者さんのために何ができるか」
それを第一に考えられる看護師になりたい**

**ともに学び、成長できる環境
努力が自信につながりました**

中学のとき、祖父のお見舞のために訪れた病院で、看護師さんがいることによって入院生活の苦痛が軽減されることを目の当たりにし、「看護の道に進みたい！」と思うようになりました。この大学を志望したのは、オープンキャンパスで在校生が気軽に声をかけてくれるなど、他校と比べ、堅苦しさがなく、親しみやすい雰囲気だったから。看護学科には、性別に関係なく、切磋琢磨しながらがんばれる環境があり、それが大きな支えになっていきます。国家資格の取得が目標のため、勉強中心の大学生活でしたが、1つひとつ壁を乗り越えることで、知識や技術だけでなく、自信もしっかりと身につきました。

**先生、先輩、就職課のサポートが
内定へとつながりました**

4年次の春、合同説明会に参加し、そこで東京大学医学部付属病院に興味を持ち、すぐにインターンシップを申し込みました。病院を訪れた際、卒業生に会って、いろいろな話を聞けたのは、先生が事前に卒業生を紹介してくださったお陰です。情報を得たことで、面接にも自信を持って臨むことができました。就職課の担当者にも、履歴書の書き方や小論文の対策など、いろいろな面でサポートしていただいたことも、不安の解消につながっています。将来の目標は、患者さんのことを第一に考えられる看護師になること。それができて初めて知識や技術が生きてくると思っています。

こども発達学科での就職支援等の現状 〜就職率100%、30%以上が公務員採用〜

こども発達学科は、昨年度の4期生まで320名以上の卒業生を社会に送り出していますが、毎年、卒業時には全員が就職(内定)という快挙を続けています。

進路先は多様で、保育所・幼稚園・認定こども園が卒業生全体の約50%を占め、小学校・特別支援学校などが20%、福祉施設と一般職が約15%ずつとなっています。

また、卒業生全体の35%ほどが公務員として採用(非常勤を含む)されています。学校教育関係が60名程度、保育・幼稚園関係が40名弱、福祉関係が4名、一般職が10名程度です。このように、こども発達学科の就職率が100%、公務員採用率が30%以上となっている要因としては、次のようなことが挙げられます。

- ① 学生たち個々の進路に対する意識が高い。(〜になりたい。〜の仕事につきたい。)
 - ② 本学就職課と学科との連携による就職支援が充実している。
 - ③ 学科の教員の人脈が極めて広い。
 - ④ 学科独自の就職対策講座が充実している。(保育所・幼稚園・公務員対策講座、教員採用試験対策講座)
- その他に、学生の専門性を高めるための課外活動として、チャレンジ教室(地域の障がい児支援)、アシスタントティーチャーやインター

ンシップ(地域の小学校での体験)、ペンギンルーム(子育て教育地域支援センター)等々も取り組んでいます。

こども発達学科においては、今後、社会のニーズに応えられるよう、専門性豊かな人材育成をめざしてまいります。

(就職等支援委員 前野 哲重)



丁寧な学習支援を実践しています



教える文教大生、教わる児童も真剣そのものです

教員採用試験の結果から 〜より実践的な学修で、昨年を上回る合格者を輩出〜

平成30年度北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査結果

学 科	受験者数	1次検査合格者数	2次検査合格者数
国際言語学科	7	3	0
健康栄養学科	20	3	2
こども発達学科	28	25	13
合計	58	31	15

□他府県公立学校教員採用候補者選考結果
神奈川県高等学校英語科 1名合格 国際言語学科
秋田県小学校 1名合格 こども発達学科

内容で例年とおりで、筆記試験、論文検査、個人面接、模擬授業、集団面接、実技試験などが行われました。教員採用試験に臨むためには、大学での学修はもちろんのこと、教養科目、専門科目の復習や学習、さらに表現力・教育実習の授業実践からコミュニケーション能力を高めることが必要であり、学生一人一人が周到に準備をすることが求められます。

教員を志望する学生を支援するために、教育現場での実習や体験を増やすように3学科ともに工夫を凝らし、学生が実際に児童生徒の学校での学びや活動を支援する機会を多く設けています。具体的には、家庭市内小中学校への教職体験プログラムであるアシスタント・ティーチャーの実施、インターンシップ授業の展開、さらには家庭市内で行われるボランティア活動への参加な

ど実践的な学修機会を実施しています。

大学での教職に関係する授業を受けるだけで教員になることはできない時代です。様々な人々との交流、コミュニケーション能力を高めるための経験、児童生徒への学習支援など人と関わり、自らも学ぶ姿勢が必要です。

本学学生も志望の実現に向けて真剣に意欲的に学修に取り組んでいます。3学科は、教職をめざして本学に入学し、教職課程を履修している学生の志望の実現のために授業の一層の工夫と改善に努めます。

今後とも教職課程履修学生への学内の職員の皆様、教員の皆様のご支援とご指導をよろしくお願いたします。

(教職課程指導室)



学習支援を通してコミュニケーション能力もアップ!



教職体験プログラムでより実践力を高めます

『BUNKYOでしかできない50のこと』
 ～全学学生有志が学生目線で独自のHBUの魅力を発信

本学人間科学部健康栄養学科には、「学内アンケートによる商品分析から企業プレゼンテーション、試験販売まで。管理栄養士を目指す学生100名が御社の商品に新しいムーブメントを起こします。」をキャッチフレーズとして多彩な活動を実践している『商品開発研究会』という特筆すべき学生組織があります。(商品開発研究会の詳細な活動は本広報第36号でも紹介されています。)商品開発研究会の広報担当を務める健康栄養学科3年の齋藤真子さんは、「研究会の活動とおして様々な企業や地域社会と商品開発や各種イベントに参加させて頂きました。会のメンバーの中には、同時にオープンキャンパスや学生スタッフとして活動している仲間もいます。そんな状況で、自然発生的に大学案内(パンフレット)



やHPでは紹介されていないHBU(北海道文教大学)の良いところや楽しい事、同時に地域についても紹介できた面白いという話になりました。研究会の指導をお願いしている板垣教授に相談したところ、札幌市観光協会発行の興味深いリーフレットを紹介されました。研究会で議論を重ねているうちに、同様なリーフレットを作るのであれば全学に拡大しなければ意味がないと思い、各学科に声をかけたところ賛同を得る事ができました。」と企画のいきさつを紹介してくれました。

研究会が全学的な取り組みに発展させるにあたり最初に行ったのは、企画イメージを各学科賛同学生に理解してもらう事でした。その為に入試広報課に協力依頼してデザイン会社を紹介してもらいリーフレットのダミーを作り、タイトルを『BUNKYOでしかできない50のこと』と決めました。HBUでしかできないことを20タイトル、各学科でしかできないことを各5タイトルの計30タイトル、合計50コンテンツの編集作業にかかり、その為の編集会議は5回以上を数えました。リーフレットはA2両面仕様で裏面には、大学を中心とした恵庭市の地図も掲載し、地域や文教生推薦の店舗

情報、Q&Aと盛りだくさんの企画です。持ち歩き活用に配慮し蛇腹折り仕上げとなる計画です。本広報が発行される1月下旬には、完成予定で早く完成品を手に取りたいと最後の作業に力を注いでいる様子です。

今回の企画に参画した研究会学生の中からは、我々がモットーとしている「栄養×商品開発…100人の大学生が生み出す新たな視点」にも合致しており、『BUNKYOでしかできない50のこと』リーフレットや我々の活動がきっかけとなり、学生同士がお互いにリスベクトしあうきっかけとなれば嬉しいとの声や、異なる角度から大学や地域の事、各自の専門性との整合性を考えていきたいなど、今後の発展が大いに注目されるところです。本リーフレット

は、本学HPにて紹介し、希望者に無料配布の計画です。



北海道文教大学 情報発信ポータル

HBU HIROBA



「HBU HIROBA」には大学の情報が盛りだくさん！
 大学ホームページの以下のバナーをクリック、
 またはQRコードをスキャンすると閲覧可能です！

HBU HIROBA
 北海道文教大学 情報発信ポータル

ホームページ上の
 バナーをCLICK!



新入予定者 2018年4月から学びに期待感

「ナビゲーションHBU2018」実施される

本年度2回目となるナビゲーションHBU2018が2017年12月9日(土)鶴岡記念講堂にて開催されました。本ナビは、2018年4月入学予定の公募推薦入試やAO入試の合格者を対象として計画

実施しているもので、入学後4年間の学びをより具体的に実感して頂くように、各学科教員が案内人となり、各学科先輩学生達が新入予定者に直接プレゼンテーションを行いました。新入予定者は、合格した学科ばかりでなく他学部他学科の先輩達のプレゼンテーションを初めて体験し、北海道文教大学全体のイメージをより具体的に実感できる機会となっています。

総合MCをつとめた国際言語学科岡本佐智子教授のフロアインタビューを受けた新入生は、想像以上の刺激を受けた様子で「早く健康栄養学科板垣教授のアレルギーの授業を受けたい。」「国際言語学科先輩の流暢な英語力に驚いた。」「これも発達学科の『表現力スキルアップ講座』代表先輩学生のプレゼンテーションが楽しく印象に残った、今から志望学科を変更したい。」等々の意見も聞こえ、「それは、無理ですね!」と返され笑いを誘っていました。一方でプレゼンテーションを

行った先輩学生スタッフからは、「自分たちの入学時に、このようなイベントがあれば4年間の学びに対し計画性がもてた。」との声も聞こえ主催者は、的を得たりと思うと同時に反省の思いを新たにしました。

参加者全員学食ランチで和み、午後は医療系3学科によるプレゼンテーションが行われました。理学療法学科は「医療分野の学習を理解しよう」がテーマでしたが、案内人の大森教授と先輩2人の「本音ト

ク」となりました。作業療法学科は、1年・3年・4年の各学年先輩が「医療系分野の学びのプロセスを紹介」、作業療法学科の気質が表れた大変好感が持たれる発表となりました。ラストは昨年に引き続き看護学科が、「人を知って病気を学び、そして個々人にあつた看護ができるように学修する。」をテーマに「4年間の学び」私を成長させてくれた患者との出会い」を4年生が終始真摯な態度でプレゼンテーションしてくれま

した。参加した新入予定者たちは、学科の枠を超え真剣に且つ感動の様子で聞き入っていました。最後は、登壇したすべての先輩学生が新入予定者に一言ずつエールを送り、来春4月の再会を誓いハイタッチで送り出していました。

ナビゲーションHBU2018の具体的な様子は、本学情報発信ポータル「HBU HIRоба」にて動画を公開しておりますので是非ご覧ください。



文教キッズカレッジの紹介

地域の子どもの学びを支援する学科協働事業

「文教キッズカレッジ」は、学内共同研究費の助成を受け2016年度より実施している事業です。看護学科教員有志と子ども発達学科の笠見康大講師および両学科のサポート学生が中心となって、小学校の夏休み・冬休み期間中に子ども向けの参加型学習を恵庭キャンパスにて開催しています。この事業の主な目的は、地域の子どもたちに、実際に大学の施設で学びながら職業の



これからみんなで看護のお仕事を体験します！

特性と大学について、理解してもらうことです。また、学生たちが実習とは違う場で子どもたちの特性を知り、学びの支援を行うことよって新たな気づきや学びを得る機会となることも意図しています。

「文教キッズカレッジ」のプログラムは、①大学の概要について学ぶミニ講義「大学ってどんなところ？」②大学施設の見学を行う「大学探検」③選択制の「体験学習（看護・ものづくり）」④一日大学生体験の「修了証書授与式」で構成されています。小学生とその保護者が半日で大学での学びを経験するようになっています。そして、小さな子どもがいる家庭の保護者が子どもに付き添って参加が出来るように学内の託児も準備しています。

これまでの体験学習の主なテーマは、看護師体験では「2016年夏・生まれたばかりの赤ちゃんの看護」、「2017年冬・おとなになるってどういうこと？（高齢者の模擬体験）」、「2017年夏・からだのふしぎ」です。子どもたちは看護師のユニフォームを着て、大学生が看護技術演習に使用する教材モデルで看護体験を行いました。ものづくり体験のテーマは、「2016年夏・作って遊べるパラシユート」、「2017

年冬・オリジナルろうそくを作ろう」、「2017年夏・ヘリコプターを作ろう」です。子どもたちは造形教室で保護者と一緒に制作活動を行い、オリジナルティあふれる作品を作っていました。

「文教キッズカレッジ」に参加した子どもたちの感想は、「看護師になりたい気持ちが強くなった」、「大学のことがわかって楽しかった」、「大学の肯定的な感想が寄せられています。保護者からは「実際に大学の教室や実習室に入れて、大学の様子がわかって良かった」という声もありました。サポート学生は、「子どもに教える難しさがわかり、教えると



看護師体験の様子
みな真剣です



子どもと保護者が協力しながら
ものづくり体験



プログラム修了後には修了証書が授与されました



赤ちゃんの看護を実践中！

きの説明の工夫が必要だと思った」など、課外活動であるからこそその学びを得ていました。

参加者は恵庭地域の小学生だけではなく、千歳市や札幌市からも参加があり、毎回案内の直後から多くの申し込みがあります。「文教キッズカレッジ」の開催の様子は新聞記事として掲載され、他大学からの問い合わせもきています。今後も地域の大学として家庭や学校と連携した活動のひとつとして「文教キッズカレッジ」を継続して行い、子どもたちの「生きる力」を育む一助となる企画をしていきます。

北海道文教大学「商品開発研究会」の紹介

「地域資源を活用した商品開発で地域の活性化に貢献」

はじめに

本研究会は、平成25年6月に人間科学部健康栄養学科の板垣康治教授と77名の健康栄養学科学生有志により発足し、現在は会員数約120名を擁しています。本学科における卒業後の進路は、専門職として病院、給食委託企業、栄養教諭、福祉施設などに就職するほか、最近では食品メーカーなどの企業を希望する学生も多くなってきました。活躍の場を広げています。社会では、自分で考えて行動することができる人材を求める傾向にあります。そこで、教育活動の一環として、一般的なサークル活動とは一線を画する形で発足したのが商品開発研究会です。

当研究会の特徴としてチーム、ユニット編成による明確な組織化を挙げることができ、各チームは5名程度で構成され、各チームのリーダーによるリーダーシップのもとにチーム単位での活動が中心となっています。さらに各チームを総括する責任者とそれを補佐するメンバーで組織された執行部により運営されています。もうひとつの特徴は広報担当ユニットを置くことにより、対外への発信をタイムリー、かつ効果的に行うことを可能にしています。

活動方針

「個人の強みを創造すること」を目的とし、自分の果たすべき役割を意識し、仲間との協働や個性を活かす方法を身につけるとともに、学生自身が様々な体験を通じて、やりがいを見つけ、何より学生生活を楽しむことを第一に活動しています。

活動概要は、健康栄養学科に所属する1年生から3年生で構成された13チームが、メーカーから依頼された商品開発を具体的に進めていきます。すなわち、商品の企画提案のみならず、商品化されるまでのプロセスにも焦点を当て、より実践的な商品開発に学生主導で取り組んでいます。主として北海道の地域資源を活用した商品開発を行い、地域経済の活性化、地産地消の推進に貢献しています。さらに最近では、単なるものづくりだけでなく、普段の学びを地域に還元することを目的とした「料理教室」などのことづくりに力を入れています。

これまでの実績

恵庭バーガー、秋の限定スイーツ、コラボパン、パスタソース、焼き菓子などの開発を行ってきました。特にパスタソース(JA道央とのコラボ企画商品)、焼き菓子(札幌市内にある有名菓子店「ショコラティエ・マサール」とのコラボ商品「ブランブラウニー」)については、当研究会を代表するコラボ商品として多くのお客様から支持を得ています。平成28年度には、本学と北ガスジェネックス株式会社とが包括連携協定を締結して、それぞれの強みを活かして地域に貢献することを目指した活動を指向しています。その第一弾として、平成28年度9月より該社恵庭営業所の多目的スペースを使って「料理教室」を展開しています。当研究会では、北海道の陸の玄関である「札幌駅」と、空の玄関である「新千歳空港」の攻略を重要な戦略として

掲げていますが、平成29年度には、当研究会、北ガスジェネックス(株)、千野米穀店の3者が共同で、ガス炊飯でおいしいブレンド米「おりひめ」と「ひこぼし」を開発しました。これら2種類のブレンド米は、札幌駅の大丸百貨店札幌店内にある千野米穀店において販売して、新聞などのメディアにも取り上げられ大きな反響を呼びました。さらに、平成29年度は、札幌バルナバフーズ株式会社と共同で、「海鮮サンギ弁当」が開発され、同社が運営する新千歳空港国内線ターミナルビル内の弁当店「美食千歳」で発売されています。皆様もぜひ味わってみてください。



研究会集合写真



試験販売の様子



試作の様子



YOSAKOIソーランサークル～陽燕～の演舞

大学祭 （恵華祭）開催

10月7日（土）・8日

（日）に開催された大学祭は天候にも恵まれ、例年以上の来場者がありました。

今年のテーマは「火花sparkles」。大学祭実行委員長によると、一人が持つ光は小さいかもしれないませんが、学生一人ひとりが協力しあうことで輝くことができると思います、このテーマにしたそうです。

また、「sparkle」は活気という意味があることから、来ていただいた皆さんに北海道文教大学の活気を届けたいという思いが込められているとのことでした。

イベントも盛りだくさんで、体育館では軽音楽部とダンス同好会による学生LIVEの他、恵庭岳太鼓や健康太極拳、YOSAKOIソーランサークル、吹奏楽部によるパフォーマンスが繰り広げられ、華やかな演出で大学祭を盛り上げました。校舎内では、各学科の学生による研究発表や文化系学

生団体の展示会もあり、たくさんの方々が、学生の説明に耳を傾けていました。また、「スタンラリー」や「緑日」では景品をゲットした子どもたちの歓声が校舎内に響いていました。

屋外の模擬店は20店が軒を連ね、たこ焼きや焼きそばなどの定番メニューから、中国人留学生による「火鍋」や料理研究同好会の「マフィン」などの趣向を凝らしたメニューが参加者の胃袋と心を満たしました。

一番人気は、「ゲストライブ」。今年のゲストは、お笑いコンビの「よゐこ」と「なすなかにし」。軽妙なトークで会場に笑顔をプレゼントしてくれました。

大学祭のラストは「大花火大会」。夜空に浮かび上がる多彩な「花火」が、テーマである「火花」となって、実行委員達を労います。実行委員長の涙が頬を伝う光景に感動しました。

最後に、大学祭に協力、参加していただいた皆様、協賛いただいた企業の皆様にお礼を申し上げます。



ダンス同好会のパフォーマンス



サークル模擬店

祝・平昌オリンピック 女子アイスホッケー日本代表選手に決定

本学外国語学部国際言語学科3年生 高(たか)涼風さんが、2月に平昌(韓国)で開催される冬季五輪の女子アイスホッケー日本代表選手(スマイルジャパン)に決定しました。1月11日に鶴岡記念講堂にて開催された「壮行会」では、花束や寄せ書き国旗が贈呈され、150名を超える学生と教職

員が高選手に熱いエールを送りました。センターフォワードとして日本の勝利に貢献し、華麗なゴールとメダル獲得を期待しています。高さんを、そしてスマイルジャパンを、大学をあげて応援していきます。



女子バスケ部 1部リーグ第4位

昨年度、見事一部リーグへ昇格を果たした北海道文教大学女子バスケットボール部は今年度、顧問の平岡先生(こども発達学科)指導のもと、北海道学生バスケットボール連盟主管の第62回北海道大学バスケットボール選手権大会に臨み、強豪ひしめく1部リーグ8校中(女子は1部〜3部リーグ…国公立立大学短大計25校)第4位(全道4位)という素晴らしい成績を収めました。

また、昨年7月に行なわれた第34回日本女子学生選抜バスケットボール大会の全国大会において、本学から、国際言語学科3年生 佐藤あおばさんと理学療法学科3年生 塩野絵梨さんが、北海道選抜チーム(全18名)の選手に選ばれ大活躍しました。

国家資格や免許取得を目指す学科が多い本学では、講義のほかに実習や演習に時間がとられるため、6学科の学生全員で練習することが困難な状況にもかかわらず、スポーツに力を入れている他大学に勝利することは、並大抵の努力では成し得ません。頑張った学生達にこれからもエールを送りたいと思います。4月には新入生が入部してきます。1部リーグに残留できるように頑張りますので、応援よろしくおねがいします。



平岡先生(左)、女子バスケットボール部



佐藤あおばさん(右)と塩野絵梨さん(左)

学会で国際言語学科の学生が英語でスピーチ!

去る11月19日(日)、大学英語教育学会(JACET)の北海道支部研究会が、本学を会場として開催されました。本学からは「アカデミック・ライティング I」という授業の中で学生が作成した英語の新聞およびその教育的効果について、本学科のリッチモンド先生と佐野先生が報告しました。この授業は、英語の新聞の構成や文体・語彙などを分析しながら自分の選んだテーマについて深く掘り下げ、自分なりの新聞を作るというものです。学生が選んだテーマにはファッション・アイヌ文化・宇宙新聞(フィクションの新聞)などさまざまなものがあり、創造力を駆使した楽しい活動となったことが報告されました。また英文を書くことを通して英語を学べたことはもちろん、インターネット上で多くのフェイクニュースが飛び交う中で、どの情報を信じて自らの行動を選択していくのかというメディアリテラシーの問題についても学んだことなどを報告しました。



さらに本学科2年生の楠田航平さんと山上徹さんが英語での発表を行いました。昨年に続き今年もまた、この学会で本学科の学生がプレゼンテーションをする機会をもったのですが、その内容のすばらしさとプレゼンテーション技術、および英語の流暢さについて、参加した他大学の先生方から非常に高い評価をうけました。また学生が英語で学会発表を行う様子は、参加していた本学科の卒業生や現役の文教大生にとっても大きな刺激となりました。

英語教育の学会ということもあり、この日は英語教師を志す学生も多数参加していました。参加した学生の中から、英語教育の世界や、海外で英語を使ってグローバルに活躍する人材が現れるのを期待しています。

管理栄養士の実力を育む給食経営管理実習

管理栄養士は、食と栄養を司る医療系の専門職として、人々の健全な食生活と健康寿命の延伸をサポートしています。あらゆるライフステージの個人や集団に対する食事や栄養に関するアドバイス、給食施設における献立の立案と食事の提供、および患者様の栄養管理・栄養食事指導などを通じて社会に貢献しています。



管理栄養士を養成する健康栄養学科では、栄養学関連の専門知識の学修とともに、大量調理技術を研ぐ給食の実習を行っています。給食運営の管理者である管理栄養士は、ただ献立を立てて調理すればよいわけではありません。学内の給食実習では、給食施設で求められる栄養・食事、生産、品質、施設・設備、情報および経営などの管理業務を、実習を通して一連の流れとして学びます。

実際の調理作業は、一度に100食以上の大量調理となり、食材の切裁量が多くなります。学生は、家庭では普段使わない大型の調理機器を駆使して、おいしい給食を提供しようと奮闘しています。給食施設では、安全・安心な食事を提供するために、調理中から徹底した衛生管理を行っています。また、食材の温度管理や作業導線など、普段の調理以上に考慮しなければならないことがたくさんあります。



自分たちで考案した献立による食事を健康栄養学科の2年生全員の昼食として提供するために、皆真剣です。食事の提供後には、喫食した学生から率直な意見が返ってきます。寄せられる意見に学生は、一喜一憂しながら次回の実習の励みにしています。2学年後期の給食実習が終わると3年生では、臨地実習として給食施設の現場で管理栄養士業務を体験することになります。今学生は、より良い臨地実習を実現するために学内の給食実習で、給食管理の基礎を着実に身につけています。

4年生は国家試験対策、就職活動、3年生は実習で大忙しです!

理学療法学科の4年生は2月に行われる国家試験の対策と就職活動で大変忙しくしています。国家試験対策では、合格率100%を目指して、毎朝、小テストを行い、その後問題の解き直しをゼミグループで行っています。また理学療法総合セミナーとして15回の各専門領域の国家試験対策講義が行われています。その成果を1ヵ月に1回の国家試験の模擬試験で確認します。すでに合格点数に達している人もいれば、まだまだ頑張らないといけない人、いろいろいますが、合格に向けて日々ひたすら勉強しています。就職活動では病院の見学や筆記・面接試験と大忙しです。就職内定学生が徐々に増えており、現時点で約半数の学生が内定しています。最終的に3月の卒業の頃までには就職率100%となるよう、国家試験対策・就職活動ともに、学生、教員一丸となっています。



4年生の国家試験対策



3年生の義肢装具学実習

3年生は実習科目が多く、また1月末からの学外実習の関係で試験が早めに行われます。義肢装具学実習では特殊な機器を使用して装具用の靴底を作製しています。発達障害理学療法実習では学外で子どもの理学療法場面を見学する実習を行っています。また1月末からの学外の臨床実習に向けて、日々理学療法評価の練習をしています。



3年生の発達障害理学療法実習



3年生の学外実習に向けた練習の様子

作業療法臨床実習後のプレイバックシアター

3年生の評価実習の事後指導としてプレイバックシアターを行いました。プレイバックシアターとは、アメリカで始まった即興劇です。観客(参加者)の誰かが自分の体験を語るテラーとなり、司会進行役のコンダクターの横に座り、自分自身に起こったこと、過去の記憶などをその場にいる人全員に紹介します。その後、劇を演じる役者(アクター)が、そのストーリー(話の内容)を瞬時に劇として再現します。本学では、外部の団体であるプレイバック・ユウの協力をいただいて、3年目の取り組みとなりました。

この時間では、評価実習で経験したことを学生同士で分かち合いながら、実習先で経験したストーリーが語られ、再現されました。先行して取り組んでいる県立広島大学の実践から、この手法を用いることで次の実習への準備になることが知られています。また、参加した学生からは、例年、「自分の課題に気づいた」「次の実習に行くのが楽しみ」などの感想が聞かれています。

次の実習に向けて、有意義な時間だったと考えています。プレイバック・ユウの皆様、毎年ご協力いただき、ありがとうございます。

また、これまでのプレイバックシアター終了後には学生へのアンケートを実施しています。その結果について、大川浩子先生、金子翔拓先生、清水麻衣子先生が、2017年9月の第51回日本作業療法学会で「臨床実習の事後指導としてのプレイバックシアター」の演題を発表しました。



看護学科3年生 実習奮闘中!

看護学科3年生後期は、成人看護学、小児看護学、母性看護学の実習があります。

実習が始まって間もない頃は、緊張や不安があり、なかなか患者さんのものに積極的に踏み出せずにいましたが、実習を重ねるごとに笑顔が増え、自ら患者さんに寄り添って物事を考えている姿を見ると、日々、看護学生として成長していることを実感します。専門領域における実習の為、帰宅後の学習も多く、十分に眠れない日もありますが、授業での学習と実習での体験が



一致し、「わかること」や「できること」が増えると「楽しさ」を覚えるようです。

また、3年生は、今後の進路を考え始める時期です。学生からは、「様々な領域での実習を通して、自分の適性を考えます。」「実習先で丁寧に指導して下さった看護師のようになることを自分の目標にします。」などの声が聞かれ、将来に向けて確実に一歩ずつ進んでいる様子が見えます。辛いこともあると思いますが、実習でしか得ることができない学びも沢山あるので、これからも頑張りたいと思います。

写真は、母性看護学実習の様子です。母性看護学実習は病棟実習だけでなく、助産院や子育て支援施設においても実習を行い、幅広い視野から母子とその家族に対する看護を学んでいます。

表現力スキルアップ講座で表現力を豊かに



こども発達学科では、今年度よりこどもとの関わり方をより豊かにするための「表現力スキルアップ講座」を始めました。本講座は地域で表現活動をしている方々を講師としてお招きした「スキルアップ講座」と学生組織による「修了講演(学習成果発表会)」から成り立っています。

全12回のスキルアップ講座では「演劇的表現」「ダンス」「音楽療法」「語り」「読み聞かせ」

「切り絵」など多様なジャンルの表現者によるワークショップを体験できました。また、新しくできた保育演習室を利用することで身体を大きく使った動きのある活動が可能になり、生き生きとした表情で楽しそうに参加している学生からは普段とは違った側面を見出すことができました。

講座を修了した学生による修了講演は、12月24日に鶴岡記念講堂にて行われました。学生達は、授業後の限られた時間の中で「ミュージカル」「ハンドベル」「読み聞かせ」などの準備を進めました。共同で作り出す活動なので、個性がぶつかる場面もありましたが、対話を通して互いのことを学びあいながら前進するなど、講座を通して大きくスキルアップした姿を見せてくれました。



食 物 科 各 種 コ ン テ ス ト に て 実 力 を 発 揮 !!

本校の伝統ある食物科では、専任教員の三國純先生の指導の下、この1～2年で各種コンテスト等へ応募、出品等、対外的に出場する機会が増えています。

1月の東急デパート「ミルク&ナチュラルチーズフェア」への出演や6月のイベント「スポカル2017 in 真駒内アイスアリーナ」への出店の他、9月には、予選を勝ち抜いた食物科3年生と2年生の計3チームが、帯広市で開催された「高校生NO.1シェフを決める!」という「とちマルシェ料理甲子園」決勝に出場しました。テーマは十勝産食材を使用した家庭で作れるアイデアレシピで、全国各地からの19チームによって競われ、本校2年生チームの長イモ、じゃがいも、蕎麦の実をつないだ「十勝の輪」が3位(奨励賞)を受賞しました。【①】

10月には、鎌倉女子大学主催の第6回お弁当甲子園に2・3年生食物科生徒が作品を出品し、2年生の佐藤桃夏さんの作品「目標である父へ“未来のシェフおまかせ弁当”」が入選しました。「お弁当であなたの思いを表現しよう」というテーマで全国の高校より5,073作品(225校)の応募の中、道内の高校生の入賞者は、佐藤さん唯一人で、本校としては昨年に引続きの入選です。【②】

そして11月、第33回調理師養成施設調理技術コンクール北海道地区予選大会の日本料理部門と西洋料理部門に食物科3年生3名が出場し、専門学校生が多数参加している中、本校の川原田涼介君が西洋料理部門で北海道代表に選出され、平成30年2月の東京での全国大会へ出場します。

本校の女子サッカー部は、9月の「第39回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会北海道予選」に4年ぶりに優勝し、10月の全国大会へ出場し、また10月の「第26回北海道高等学校女子サッカー選手権大会」では3連覇して26年連続となる12月末の全国大会へ出場しました。男子サッカー部も10月の選手権では準々決勝まで駒を進めました。

進路では北海道文教大学への推薦合格100%をはじめ医療系大学・専門学校への合格実績はもちろん、札幌市役所(一般事務)や北海道警察、神奈川県警への合格など一般就職での内定も好調で、今年度も就職希望者合格100%を目指しています。

今年度の「チャレンジする姿勢」、「進化する授業」、そして



「スポカル」で自作クッキーなどを販売し、好評でした!

「夢を引き寄せ」の3つの学校経営目標の実現に向かって、教職員一同、一丸となって「チーム明清」として進んでいます。

① 料理甲子園に出場して

食物科2年 蓮井優希

9月3日に帯広のとちプラザで行われた「とちマルシェ料理甲子園」へ出場しました。大会へエントリーした3人1組の3チームでは、どんな料理にしてどのような盛りつけにするかなどを毎日話し合いながら、三國先生や山口仁美先生、和食を教えてくださいという本間先生からアドバイスをいただき進めていきました。1次審査は写真のみの審査なので、見た目重視の盛りつけで応募しました。そして2週間後に呼ばれて合格が告げられた時はみんなで喜びました。その後、本戦へ向けて、3チームともみんなで話し合っ



3チームとも協力しあい、見事入賞チームを輩出しました

「チームあずきっ子」が3位に入賞し、とても嬉しかったです。入賞できなかった私たちも全部を出し切ったので悔いの残らない大会でした。

② お弁当甲子園に入選して

食物科2年 佐藤桃夏

今回、鎌倉女子大学お弁当甲子園に出品し入選させていただきました。そのお弁当は、「未来のシェフおまかせ弁当」という父へ向けたものです。現在、私は調理師になるための勉強をしています、そのきっかけが父でした。憧れの父と同じ仕事がしたい、そして多くの人びとへちょっとした幸せを提供することが夢です。

この大会の表彰式で、審査員の方のお話を聞いて、心に残ったことがあります。「お弁当は他の料理以上に想いがすぐ伝わりやすく、その時の気持ちや性格がでる」とのお話で、改めて料理は気持ちの大切さが一番であり、より一層、相手を思いやることに意識を高め



佐藤さんの想いが詰まった「未来のシェフおまかせ弁当」

めないといけないうことに気づくことができました。このような貴重な体験をさせていただき、とても自分にとってプラスとなりました。さらなる上を目指していきたいです。

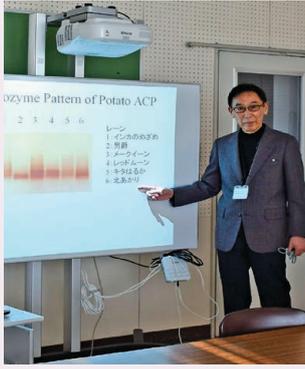
研究室訪問

Vol.5

生化学の振り返り

健康栄養科学研究科
健康栄養学 教授 大山 徹

健康栄養学学科の基礎分野「生化学」を担当しております大山です。私の生化学の出会いには、北大での研究室に配属された時に始まったと思います。当時、生化学の中でも、酵素化学の全盛時代で、植物の酵素の精製に毎日を通り掛けていました。修士課程の終わりに、新規の阻害様式を見出した時に、指導教授から大変に褒められて以来、生化学の道を進むことが運命づけられたと思っています。大学院修了後、一貫して生化学を基盤として毒性学やタンパク質化学の研究に従事してきました。



生体構成成分や化学反応の過程を対象とする科学であり、近年の遺伝子工学の導入によって生化学は飛躍的に進展しております。本学科のような管理栄養士養成施設では、栄養学、食品科学などで生化学に触れる機会も多く、教育課程の学術的基盤となつています。しかし、生化学は、職業人としての栄養士にとって直接関わる要素が少ないこともあり、単に知識・理解を深める学習の機会として捉えられている面もあります。

6年前に本学に赴任して以来、幸いなことに幾人かの学生に酵素生化学に関する卒業研究を指導することが出来、学生と共に研究を続けることに大きな喜びを感じています。私にとっては、伝統的な生化学手法をもう一度振り返ってみるのも無駄ではないと考えております。

本学には、念願の健康栄養学研究科が開設し3年が経過しました。生化学分野での活躍を夢み、熱意ある皆さんの大学院進学を心より期待しております。

NEWS ■附属幼稚園



「心」を育む表現活動

幼稚園の秋から冬は、豊穡の時とも言える季節です。園児たちは、日々の生活の中で、各々の持ち味を知り合い、相互に影響を与え合いながら自信を深めます。この時、一人一人が自分のやりたいことを、活動の中に如何に取り込んでいけるか、一人ひとりの子が主人公になれるかが課題になります。

こどもたちの育ちには、毎日の積み重ねの中で、徐々にできることが増える量的な成長と、何かをきっかけに気持ちが変わり、表情が大きく変わるなどのような質的な成長があります。注目したいのは心の育ちともいえる質的な成長です。できることが増えることを認めることは比較的容易ですが、質的な成長は認めにくいので、正當に評価することは難しく、だからこそ、私たちはこどもたちの心の育ちに、目をかけ、手をかけ、心をかけねばならないのです。

充実の時期に園全体で取り組む「行事」は、心の育ちが現れる良い機会です。準備を重ねて実行し、成し遂げてこそ現れるこどもたちの姿は感動的です。充実感と共に、一人ひとりの子の気持ちや認識の変化が、眼差しや雰囲気によく表れます。

11月・12月は、附属幼稚園の総合的表現活動の季節です。11月に、異年齢縦割りクラスによる劇遊びを発表会として行います。12月には、年齢別の歌や楽器の演奏会である音楽会を行っています。今年の発表会のプログラムは、いちご組「にんじやとたからのちず」もも組「おおかみとりのどうぶつたち」ばなな組「ごろんごろん ころろろ」で、各クラスの遊びは、3歳から6歳の子どもたちが、それぞれ役になりストーリーを展開します。各クラス毎の歌やさまざまな工夫があり、演じきった後の子どもたちの表情が、「これらの体験が、こどもたちの心を成長させていく」と語っています。



研究室訪問

Vol.6

今を生きる人たちを

支える看護のチカラ

看護学科教授 鹿内 あずさ

「看護」は、地域に暮らす全ての人たちを対象にしています。妊娠から出産までのお母さんと赤ちゃんと家族を対象にした看護から、健康で成長するための看護、病気になったときの急性期から慢性期に至るまでの看護、在宅で病気を持ちながらの生活を支える在宅看護があります。

超高齢社会を迎えた現在の日本では、健康で長寿を過ごすための健康づくりとそれを支える地域における保健福祉行政・医療との連携が必要となります。



医療機関での急性期医療に加え、地域のチーム医療において看護を適切に提供する人材が求められます。「その人らしく生きる」ことを支えていくために「看護のチカラ(知識と技術)」が必要となるため看護学科の学生は皆さんの知識を講義や演習、実習を通して学びます。

看護学科の教員は、看護師・保健師・助産師、医師・薬剤師・臨床検査技師の資格や専門看護師の資格、及び修士・博士を含め、総勢24人が在籍しています。それぞれの教員が専門とする領域は多様で、それぞれの研究を教育に活かしています。

看護学科の教員が大学の支援で行う研究には、人間科学部の教員・事務職員と共に小中学生を対象とした専門職体験「北海道文教大学キッズカレッジ」、医療的ケアの必要な子どもへの発達を促す支援「北海道文教大学スマイルプロジェクト」があります。

在学生の皆さんには、大学の学びに加えて、本学のプロジェクトで共に実践的な活動にぜひ参加して頂きたいと思えます。

7年ごとの認証評価を受審

各大学は、教育研究の質的改善に務めるため自ら点検評価を行い、7年ごとに認証評価機関による認証評価を受けなければならぬこととなっています。

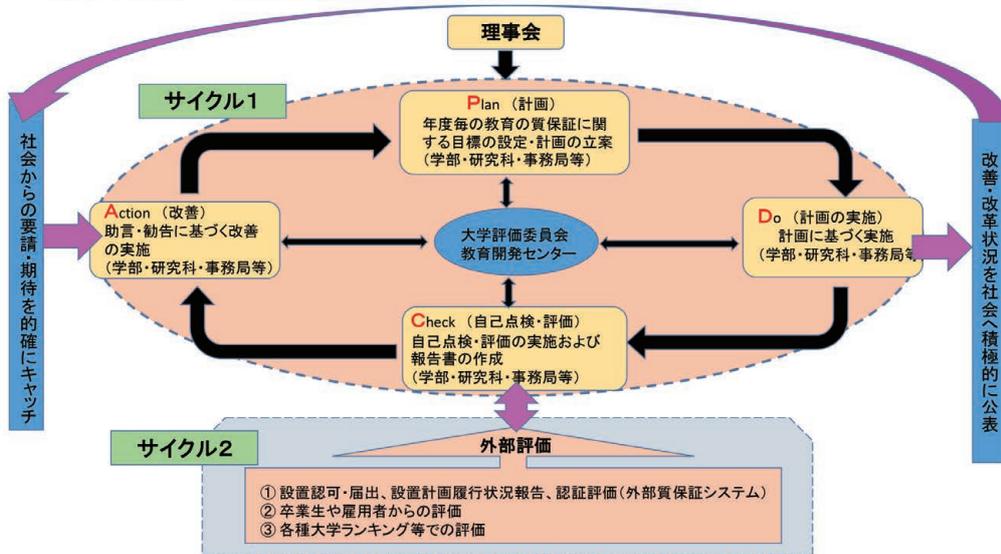
本学では前回の認証期間が平成30年3月末日までとなっていたため、公益財団法人大学基準協会の平成29年度大学認証評価を受けることとなりました。10月11日(水)・12日(木)には、大学基準協会の「大学基準」に従い本学が行った「平成28年度自己点検・評価報告書」に基づき、大学基準協会評価委員4人による「実地調査」が行われました。

実地調査では、大学基準協会評価委員と管理職員との全体意見交換、①社会連携・社会貢献、②教育方法、③学生支援等に関する担当教員の個別意見交換、④学生7名のインタビュー、⑤学内施設見学等が2日間にわたり行われました。大学認証評価の結果は、3月下旬にホームページで公表となる予定です。

本学では、今後とも「内部質保証に関する方針」に従い内部質保証システムのサイクルを回し、教育・研究水準の向上を図るため、教育研究活

動等の状況を自ら点検・評価を行い、本学職員以外の「外部評価委員」による第三者の立場から外部評価をいただきながら、教育・研究水準の向上及び組織の活性化に取り組むこととしています。

北海道文教大学 内部質保証システムのサイクル



入試日程

入試区分	出願期間	試験日	合格発表	手続締切
一般入試(Ⅱ期)	2/13(火)~3/5(月)	3/9(金)	3/16(金)	3/26(月)
一般入試(Ⅲ期)	3/5(月)~3/14(水)	3/19(月)	3/20(火)	
センター利用入試(後期)	2/19(月)~3/1(木)	個別試験は課さない	3/16(金)	
特待生入試(C日程)				

※一般入試(Ⅲ期)の実施学科は、国際言語学科、健康栄養学科、こども発達学科のみ
 ※特待生入試(C日程)の実施学科は、理学療法学科、作業療法学科、看護学科のみ
 ※特別入試(後期)、編入学(後期)については、「学生募集要項2018」にてご確認ください。

AO入試—後期—(国際言語学科)

コード	エントリー締切	面談日	出願許可	出願締切	合格発表	手続締切
I	1/31(水)	2/7(水)	2/9(金)	2/13(火)~2/15(木)	2/17(土)	3/9(金)
J	2/7(水)	2/14(水)	2/16(金)	2/19(月)~2/21(水)	2/23(金)	3/16(金)
K	2/14(水)	2/21(水)	2/23(金)	2/26(月)~2/28(水)	3/2(金)	3/26(月)
L	2/28(水)	3/7(水)	3/9(金)	3/12(月)~3/14(水)	3/16(金)	

【面談時間】①14:00~14:30(30分) ②14:40~15:10(30分) ③15:20~15:50(30分)のうち、希望の時間帯。

【出願資格】国際言語学科:国語または外国語の3年間の評定平均値が3.3以上の者。

またはエントリーシートに英文による自己紹介を記入した者。(詳細は「学生募集要項2018」参照)

入試のポイント!!

POINT ①

一般入試とセンター試験利用入試は“併願”が可能。
 志願書を同時に出す場合、同封する「調査書」は1部で結構です。

POINT ②

特待生入試で合格すると、4年間授業料が半額に減免されます。
 (但し、毎年度再審査あり)

POINT ③

第2志望まで出願が可能(一般入試、センター試験利用入試)。

第1志望学科	第2志望学科
理学療法学科	作業療法学科、看護学科、健康栄養学科、こども発達学科、国際言語学科
作業療法学科・看護学科	健康栄養学科、こども発達学科、国際言語学科
健康栄養学科・こども発達学科	国際言語学科

●再試験はありません。第1志望学科の得点で、選抜されます。
 ●第2志望の受験料は“無料”です。●志願書の指定欄にチェックするだけで出願できます。

春のオープンキャンパスのご案内

Open Campus in Spring

高校1、2年生の皆さん、いち早く“大学生”を体験しませんか?
 受験に大切なポイントやここでしか聞けない情報が盛り
 沢山!

保護者の方も是非一緒にご参加ください!

3.24(土) 10:00~14:30

特典

参加高校生にはもちろん「図書カード」
 「大学オリジナルグッズ」プレゼント

内容(予定)

- 学科紹介 ■体験講義 ■先生や先輩とフリートーク
- 学食体験 ■キャンパスツアー ■入試個別相談コーナー 他

●体験講義テーマ(予定)

学科	テーマ
国際言語学科	・英語を話すのは心?頭?
健康栄養学科	・健康栄養学科は、管理栄養士のゆりかご
理学療法学科	・理学療法士って、こんな仕事です
作業療法学科	・講義:人と作業と環境
	・先輩による実習体験:自分の好きな作業を分析してみよう ・先輩による実習体験:体験!ドライビングシュミレーター
看護学科	・講義:身のまわりの健康リスクを知る
	・実習:正しい手指消毒の方法!! ・実習:高齢者のレクリエーション
こども発達学科	・絵本『はらぺこあおむし』を通して遊んでみよう!! ・大学で必要な言葉の知識あれこれ

